



SILVERSEA®

ガラパゴス
トラベルガイド

スティーブ・マッカーリーが紹介するガラパゴス *Steve Mc*

探検家の心

ガラパゴス諸島は素晴らしい場所です。世界で唯一無二の場所を訪れて体験する一瞬一瞬がまさに進化の瞬間なのです。この島々で目にするすべての生き物ひとつひとつが何千年も命をつなぎ、独特の環境で生き抜くために進化してきました。ガラパゴス諸島で私たちが目にするものは、約200年前にチャールズ・ダーウィンが見たものと同じものです。この美しい島々を探検しながら私たちが心に留めなければならないことは、今後何世代にもわたって、この原始の自然を維持しなければならないということです。ガラパゴス諸島の保護にもどうぞ注意を向けてください。

楽しいご旅行を。



コンラッド・カムプリング
SVP Strategic Development Expeditions and Experiences

表紙写真： スティーブ・ マッカリー

スティーブ・マッカリーといえば改めて紹介する必要はないでしょう。現役の写真家の最高峰と目されるマッカリーの映像は、見る者を単に旅に誘うだけでなく、世界中を旅したいという気にさせてくれます。スティーブ・マッカリーとシルバーシーとの結びつきについて詳しくは、www.steveandsilversee.comをご覧ください。

もくじ

はじめに

魅惑の島々	4
一年を通して楽しめる旅行先	5
発見の旅	6
ガラパゴスについて	6

船上生活と島々への上陸

野生の動植物の概要	10
王立地理学会について	11
エクスペディション・チームについて	12
パッキングリスト	13
オールインクルーシブの船上ライフ	15
責任あるツーリズムのリーダーとして	16
さらに足を延ばして	17

魅惑の島々

母なる自然が作り出した最もクリエイティブな場所、ガラパゴス諸島

火山、隔絶した島、風変りな動植物… ガラパゴス諸島は科学と不思議が出会い、私たちの地球を作り出した不思議な力を見にすることができる場所です。南アメリカから 906 キロメートル離れており、まるで絶海の果てにあるように感じ、それぞれの島も孤立しているように思えます。この地はチャールズ・ダーウィンと、彼の科学的大発見を記した「種の起源」と切り離すことができません。今でもこのエクアドル領にある19の主な島々と幾十もの小島や岩礁で形作られている魅惑的な群島は、地球上でもっとも驚嘆すべき訪問先と考えられています。



一年を通して楽しめる旅行先

ガラパゴス諸島はいつ行ってもそれが最高のタイミングです



赤道にまたがって位置するガラパゴス諸島は、いつ行っても魅力的です。理想的な訪問時期は、何をみたいか、何をしたいかで決まります。ここでの季節は、暑い雨期と涼しい乾期の2つしかありません。ガラパゴス諸島に回遊性の動物はほとんどいないので、多くの動物は1年を通じて見ることができます。

暑い雨期 - 1 月から 6 月

この時期は昼が長く、水温も温暖でシュノーケリングや泳ぐには最適です。雨はほぼ毎日降りますが短い時間であがります。陸に住む鳥たちの繁殖期でもあり、めずらしい求愛行動を見られるかもしれません。また浜辺に営巣するアオウミガメを観察することもできます。

涼しく乾燥した季節 - 7 月から 12 月

乾期になると、フンボルト海流が冷たい海水と気候を運んできます。同時にフンボルト海流は、たっぷりの栄養とプランクトンを運び、アホウドリなどの鳥や魚をよびこみます。アオアシカツオドリやコミミズクが繁殖期を迎え、ドラマチックな求愛行動がみられる季節でもあります。彼らの儀式を観察する上でヘノベサ島以上の場所はありません。ゾウガメの卵が孵化するのは12月になってからです。

フンボルト海流は冷たい水と気候を運び、同時に栄養とプランクトンが豊富な海を作ります。



発見の旅

1つの多島海で多彩な探検

溶岩原、緑豊かな高地、原始の湿地帯、マングローブの森… ガラパゴス諸島にはその多様性と同じだけの驚きがあります。ガラパゴス諸島の他のすべての島々を集めてもその大きさにはかなわないイサベラ島から、広さがたった1.2平方キロメートルのバルトロメ島にいたるまで、名だたる場所が数多く点在し、別世界のような風景と固有の動植物が、訪れた探検家や事前愛好家を迎えてくれます。次にいくつか、ハイライトとなる訪問地をご紹介します。

バルトロメ島

ピナクル・ロックなど、ガラパゴス諸島で最も壮大な風景が見られます。シュノーケリングに最適な場所がたくさんあり、浜辺では岩の上で羽根を休めたり水中を疾走したりするにぎやかなガラパゴスペンギンを見ることができます。

イサベラ島

ガラパゴス諸島で最大かつ最も新しい島でもあるイサベラ島は、乾燥した不毛の地で、雄大な5つの火山がそびえています。おそらくガラパゴス諸島で最高のシュノーケリングができるのは、エクアドル火山の麓にあるプンタ・ピセンテ・ロカでしょう。ここでは、素晴らしいカルデラを見ることができます。

フェルナンディナ島

黒い溶岩地帯が広がり、日光で温められているプンタ・エスピノサの岸辺は、ガラパゴス諸島最大のウミグアナの営巣地です。手付かずの自然が最もよく保護されているフェルナンディナ島では、ガラパゴスアシカや色鮮やかなガラパゴスベニイワガニ、固有種の飛べない鵜であるガラパゴスコバネウなど、多数の素晴らしい野生動物が生息しています。

フロレアナ島

フロレアナ島は、海賊たちがこの島の洞窟を隠れ家としていた18世紀のころから、船乗りたちが立ち寄る場所でした。彼らは素朴な郵便システムを生み出しました。立てた棒の上に樽をくりつけ、ポストを作りました。入れた手紙は、国に帰る途中に立ち寄った別の船乗りが持ち帰るのです。ご希望の方は今でもこの伝統的な方法を試すことができます。

セイモア・ノルテ島

面積はたった1.9平方キロメートルの小島ですが、島内にも海中にも驚くほど多様な生物が生息しています。繁殖期に真っ赤な喉袋を膨らませる姿で知られるアメリカグンカンドリは繁殖期間が長いので、この有名な求愛行動を見るチャンスがあるかもしれません。他にも、ウミグアナやガラパゴスリクイグアナが浜辺をパトロールしていたり、砂

ガラパゴス諸島の豊かな固有の動植物や別世界の景観がはるばるやってきた探検家や自然愛好家を迎えてくれます

の中で昼寝をするガラパゴスアシカや浅瀬でエサを探すクロアジサシを見かけたりできるでしょう。

サンタ・クルス島

島の中心となるプエルト・アヨラの町にはチャールズ・ダーウィン研究所とガラパゴス国立公園管理局があります。最も重要な活動は、ゾウガメの頭数を増やすことです。ここでは甲羅の形がドーム型と鞍型の2種類のゾウガメとその子どもたちを見ることができます。

サンティアゴ島

美しいエスパミラ・ビーチは、東太平洋アオウミガメの重要な営巣地です。乾燥した内陸部には、聖なる木とも呼ばれるパロサントの大きな木が茂り、ダーウィンフィンチ類にとって申し分のない生息地となっています。

ヘノベサ島

“バードアイランド”の異名をもつヘノベサ島は、鳥たちの楽園です。アカメカモメやミノゴイが巣を作る砂浜を歩き、アカアシカツオドリ最大の営巣地を通ります。1965年に英国のエディンバラ公爵フィリップ王配が訪れたことから名づけられた階段、プリンス・フィリップス・ステップを上るとオオグンカンドリやナスカカツオドリの大きな営巣地にたどり着きます。周りをよく観察しましょう。コミミズクがウミツバメを見張っている様子を見ることができるかもしれません。

エスパニョラ島

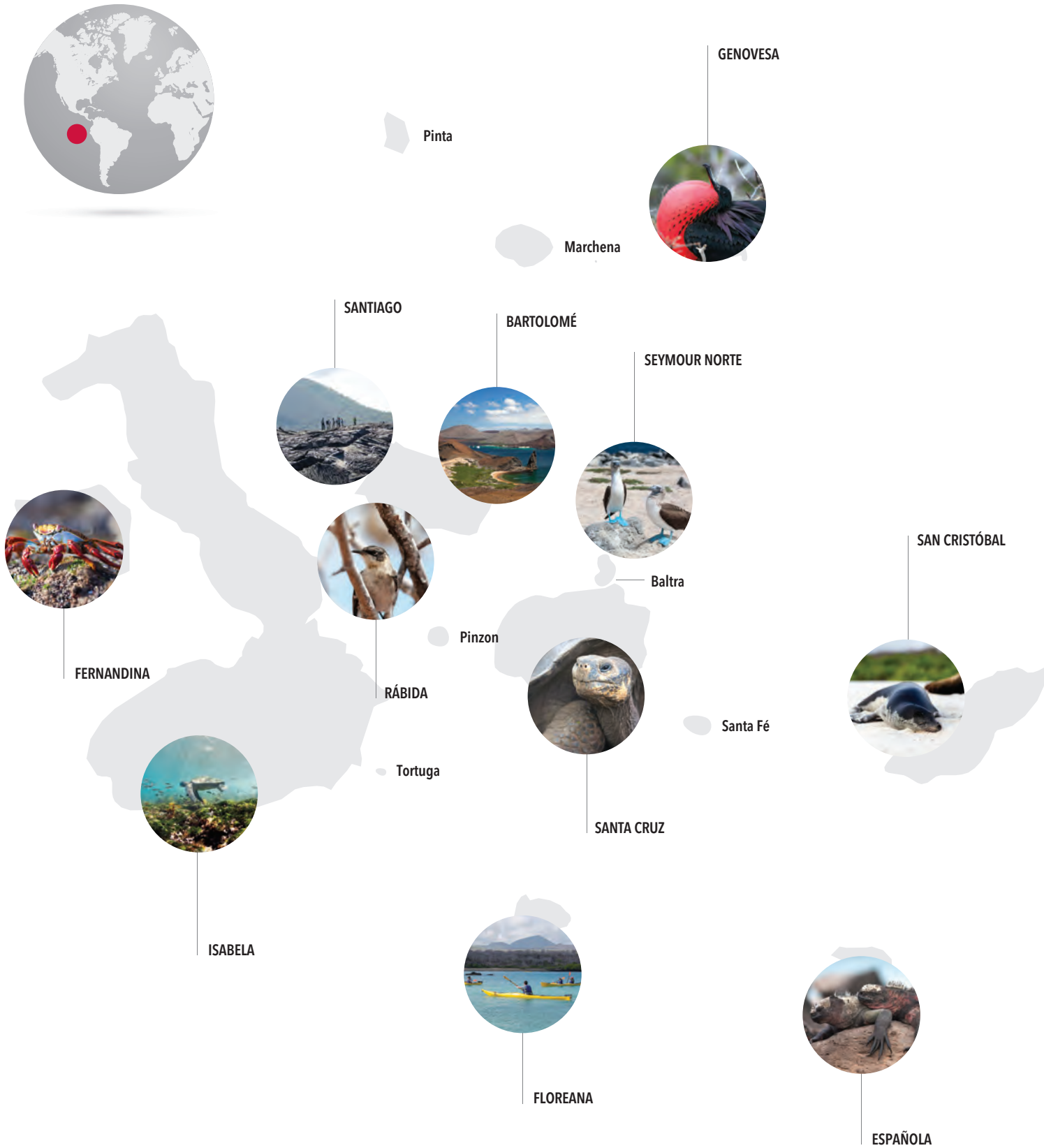
プンタ・スアレスの切り立った崖は、海鳥たちの巣作りにちょうどよい湿度と温度を提供しています。アカメカモメ、ナスカカツオドリ、アオアシカツオドリなどは簡単に見つかるでしょう。また、ガラパゴス諸島で最大の海鳥、ガラパゴスアホウドリがこの島で暮らしています。他にもマネシツグミやハト、ときにはガラパゴスノスリ、そしてガラパゴスアシカ、ウミグアナなどを見ることができます。

サン・クリストバル島

島の東端にあるプンタ・ビットは、オリーブ色をしたかんらん石の砂浜で、ガラパゴスアシカがまどろんでいることがあります。そこから峡谷を登ると、多島海の壮大なパノラマが展望できます。付近ではこちらを興味深そうに見ているヨウガントカゲに出会うかもしれません。その他にも展望台からアカアシカツオドリやアオアシカツオドリ、オオグンカンドリ、アメリカグンカンドリがいないか観察してみましょう。

ラビダ島

絵画のように美しいこの島はダーウィンフィンチ類、ヨウガントカゲ、ガラパゴスマネシツグミの住処です。赤い岩の断崖に沿って緑のパロサントの木々が生え、眼下にターコイズブルーの海が広がる絶妙な色のコントラストをご覧ください。鮮やかな熱帯魚が群れ泳ぎ、食事をするウミグアナが見られるシュノーケリングは必ずやるべきことのひとつです。



ガラパゴスを知るには

さらに深く知るためにトラベルブログをご覧ください

discover.silversea.comでは

あなたの知りたい場所について様々な記事がご覧いただけます。



ガラパゴスでの写真撮影のコツ

シュノーケリングで水中写真を撮るには

記者：フラン・モロイ

イギリス系イタリア人でサーファー写真家のルシア・グリッグは 人生の多くの時間を海で過ごし、サーファーたちや海の生き物の写真を撮っています。お気に入りの旅先のひとつがガラパゴス諸島で、そこで彼女は、人懐こいアシカや図々しいペンギン、優雅なウミガメ、色鮮やかな何千もの熱帯魚など見事な野生動物の生態を撮影してきました。

太平洋に浮かぶこの群島は、陸上であれ水中であれ、写真家にとって憧れの場所です。「陸上には素晴らしい野生生物がいます。水中にはただただ命があふれ色鮮やかな活気に満ちています。」とグリッグは言います。ガラパゴスでシュノーケリングをしながら上手に撮影する方法について、彼女の助言を聞きましょう。水中で撮影する際の秘訣をいくつかご紹介します。

[記事をすべて読む>](#)



ガラパゴスの動植物

ダーウィンの進化論から160年

記者：カレン・エドワーズ

ガラパゴス諸島の東端にあるサン・クリストバルに着いたのは、ある素晴らしく晴れた日でした。ビーチではたくさんのガラパゴスアシカがのんびりくつろいでおり、雲一つないコバルトブルーの空が水平線まで広がり、頭上には太陽がさんさんと輝いていました。

ここはあのチャールズ・ダーウィンが1835年にビーグル号で立ち寄った、まさにその島です。私はエクアドルのはるか西方のこの火山



列島にやってきたことに大きな達成感を感じていました。ダーウィンはここでの観察結果をもとにかの有名な科学論文を書き上げ、様々に変化し続ける環境の中で植物や動物、そして人間がどのように生きながらえてきたかに対する私たちの理解を根本から変えたのです。

独創性に富んだ“種の起源”は1859年に発表され、ダーウィンは自然淘汰による進化論を提唱しました。彼は次のように書いています。

「それぞれの島に固有の植物、ゾウガメやマネシツグミ、フィンチ類がいるのは確かである。これらの動植物がそれぞれの島でいずれも同じ習性を持ち、同じような場所に住み、自然経済の中で同じ立ち位置を占めているのは不思議としかいいようがない。」

[記事をすべて読む>](#)



アオアシカツオドリのダンス

求愛行動、それとも生き残るための行動？

記者：カレン・キャッチポール

アオアシカツオドリは、南北アメリカに生息する鳥の中でもよく目立ち、バードウォッチャーたちのお気に入りです。この鳥は熱心な求愛のダンスをします。ユーモラスな足踏みダンスは、ラテン・アメリカで最も魅力的な種のひとつがなぜ生き残っているかを知る鍵でもあります。もし私がアオアシカツオドリのダンスのことをよく知らなければ、この目の前にいる茶色と白の鳥は何かに苦しんでいるように見えたかもしれません。私が見守っている目の前で、この雄のアオアシカツオドリはまず尾羽を高く上げ、とがったくちばしを空に向けて、けたたましいホイッスルのような鳴き声を出しました。

その様子に気づいた雌のアオアシカツオドリが近くに降り立つと、雄鳥はその明るい青色の足を片方、高く持ち上げ、慎重に地面に戻すともう片方の足を持ち上げました。さらにそのスマートなくちばしで地面に小石を円形に並べました。雌鳥が彼のダンスを気に入り、自分にふさわしい雄と認めると、作ったばかりの円形の小石は質素な巣になり、最大3個の貴重な卵のゆりかごとなります。

[記事をすべて読む>](#)

ここに紹介したカラフルなストーリーは、世界各地の訪問先を掘り下げて紹介している記事の一部で、シルバシー・クルーズのウェブサイト「ディスカバリー・トラベルブログ」で読むことができます。トラベルブログでは、各分野のエキスパートが個人的な体験を寄稿していたり、世界各地の寄港地が色鮮やかな写真で紹介されていたり、写真家のスティーブ・マッカーリーが最近シルバシーに乗船した際の舞台裏映像が掲載されたりしています。キンバリーの太陽の下でひなたぼっこするクロコダイルやオーロラの科学などなど、オリジナリティあふれる投稿は、信頼のおける方法で、シルバシーで世界をクルーズすることが実際はどのようなものなのか知ることができるページになっています。



ガラパゴスの生物と出会う

魅惑的な生物多様性を発見



ガラパゴスアシカ

 **25** 種類の爬虫類

チャールズ・ダーウィンは、ガラパゴス諸島を爬虫類の「楽園」だと言いました。在来種 25 種のうち19 種が固有種なのを理解するのは難しいことはありません。主なものにゾウガメ、リクイグアナ、ヨウガントカゲ、ウミガメ、そして象徴的なウミイグアナなどがあります。ウミイグアナは海を泳ぐ世界で唯一のトカゲで、ガラパゴス諸島でしか見つかっていません。

 **1,432** 種類の植物

大陸から離れた多島海という狭い範囲の独特な気候と地形のため、ガラパゴス諸島は雨林というよりも砂漠に近い地域となっています。600種の固有植物と832種の外来植物を見ることができます。

ここに掲載した野生動物や植物は見るができる可能性を示したもので、目撃できることを保証するものではありません。エクスペディション・チームのリーダーと船長は気象条件、野生動物の活動や氷の状態などを考慮し、動植物を観察する機会を最大とするために協力し行動します。

 **51%** の無脊椎動物

ガラパゴス諸島に分布する生物のうち、およそ51%を昆虫や甲殻類など陸生の無脊椎動物が占めています。見落とされがちですが、その存在は重要です。彼らは受粉を媒介し、食物連鎖の一部であり、土壌形成に貢献します。最も有名なものに色鮮やかなガラパゴスベニズワイガニがありますが、そのほかにも陸生貝類(カタツムリ)だけで60種類を超え、昆虫はガラパゴスに生息する無脊椎動物の3分の2を占めています。

 **154** 種類の鳥類

ガラパゴス諸島ではたくさんの鳥類を見ることができます。全部で154 種類の鳥類が確認されており、そのうち61種類が留鳥(季節による渡りをせず年間同じ場所に棲む鳥)です。留鳥のうち29種類は固有種で、代表的なものにガラパゴスペンギンやガラパゴスコバネウ、ガラパゴスノスリ、ダーウィフィンチ類があります。また、地球上のアオアシカツオドリの 30 %が棲んでおり、アカアシカツオドリの最大の営巣地でもあります。

王立地理学会

インスティテュート・オブ・ブリティッシュ・ジオグラファーズと合わせて



01

シルバーシー・クルーズのお客様は、王立地理学会が所有する専門的な映像資料や文献をご利用いただけます。



02

冒険クルーズを運航しているシルバーシー・エクスペディションズと王立地理学会は、何世紀にもわたる調査により蓄積した科学的知識を広く知っていただくため協力しています。英国のエリザベス女王を後援者にもつ王立地理学会は、地理学の発展のためおよそ200年前に設立され、地理学において多くの重要な調査研究を行い、その成果を世界に公開しています。

王立地理学会は、地理学の発展を推進する専門機関です。ヨーロッパで最大かつ世界でも最大級の地理学系学会です。チャールズ・ダーウィン、デイヴィッド・リビングストン、ロバート・スコット、アーネスト・シャクルトン、エドモンド・ヒラリーなど多くの探検家や科学者の冒険や調査旅行を支援し、その功績を発信してきました。2百万件を超える歴史的なコレクションを持ち、古くは1472年にさかのぼる資料も所有しています。シルバーシー・エクスペディションズに参加されるお客様は、王立地理学会が所有する幅広い専門的な映像資料や文献をご利用いただけます。旅先についてもっと学びを深めてはいかがでしょうか。

01 マゼラン海峡をいくビーグル号。遠方にサルミエント山。出典「フィッツロイ船長率いるビーグル号で世界をめぐる航海中に訪れた国々の自然史と地質に関する調査日誌」(チャールズ・ダーウィン著、ロンドン、1890 年)(RGS-IBG:SG48)

02 チャールズ・ロバート・ダーウィン 1809～1882 年 (RGS-IBG:S000639)

専門家がそばに

博識なエクスペディション・チームについて



ソディアックでのエクスカーショ

シルバーシー・エクスペディションズの探検クルーズは、「エクスペディション・チーム 対お客様人数」の割合において業界最大です。航路により異なりますが、11人から28 人も専門家がエクスペディション・チームとして必ず同行し、お客様の冒険旅行をあらゆる場面でサポートします。

それぞれの専門分野において卓越した知識をもつメンバーが、日々のブリーフィングや勉強会、振り返りなどを行います。にじみ出る情熱と、親しみやすさを兼ね備えた経験豊かな面々が、ガラパゴス諸島での探検がうまく行われているか常に確認し、皆様のアドベンチャーが特筆すべきものとなるよう努めます。

知識豊富なローカルガイドは全員ガラパゴス諸島の居住者で、ガラパゴス国立公園 管理局の認定資格を持っています。シルバーシーのエクスペディション・チームとともにこの絶海の島々で見ることができる驚くほど豊かな自然にご案内し、陸上のエクスカーション中もゾディアックでの探検中も、皆様の冒険にご一緒します。

エクスペディション・チームのメンバーは予告なく変更やキャンセルになる場合があります。



ザビエル・ガーシア
エクスペディション・リーダー



イズラエル・マータ
エクスペディション・リーダー



アウラ・バンダ
エクスペディション・リーダー



フアン・カルロス・ソーサ
博物学者兼ガイド

ラグジュアリーに過ごす冒険の旅

ガラパゴスでのアドベンチャーに必要な基本の荷造り

日中は、船上でも陸上でもカジュアルな服装でお過ごしてください。5 つ星のリゾートに滞在するときのようなスタンダードなスポーツウェアがよいでしょう。船上ではフラットまたはローヒールのすべりにくい靴をお履さください。夕方以降の服装もカジュアルで結構です。首回りがゆったりしたシャツ、ロングパンツ、スポーツウェアなどが適当です。夕食時間帯のザ・レストランではジーンズとTシャツはご遠慮ください。

ガラパゴス諸島では見るもの、することがたくさんあります。最も重要なアイテムは丈夫で快適な靴でしょう。特に島内を探検する際は、往々にしてでこぼこした道を長距離歩いたり、登ったりします。上陸観光中はカジュアルな服装がふさわしいでしょう。気温の変化に応じて重ね着できる服装が最も万能で快適です。

パッキングリスト

- ・ レイン・ジャケット。防水で通気性のあるもの。
- ・ ゴム底の快適なウォーキング・シューズ。船上と探検の際に使用。
- ・ 丈夫ですぐに乾くマリンシューズ。ゾディアックの乗り降りの際に使用します。ビーチサンダルは不可。すぐに脱げてしまうものは避けてください。
- ・ 長袖シャツと長袖ブラウス。
- ・ 夜間寒くなったときのための薄手のセーター。
- ・ 薄手のロングパンツ。
- ・ 膝丈のウォーキング・ショーツ。
- ・ 水着。船上でジャグジーに入る場合や船外のエクスカーションで必要に応じて。
- ・ 日よけのための帽子。
- ・ 防滴バックパックとステンレスの水筒は船上にて無料でお配りします。
- ・ フルフェイスのシュノーケリング・マスクはお持ちにならないでください。



ブラウン・ペリカン



岩場のハイキング



イエローテール・サーフジェオンフィッシュの群れ



レンタルもあります。（事前申し込み／船上で コンシェルジュがお持ちします） silversea.shiptoshoretraveler.com

エクスペディション・エクスペリエンス

心の底から楽しみましょう

ガラパゴス諸島のすばらしさを体験するのに、快適、便利で価値あるオールインクルーシブのシルバークルーズは最高です。旅に必要なあらゆるものが含まれ、スタッフが細部までお世話をします。受賞歴のあるシルバークラパゴスでのクルーズ料金には、メインランドから島への往復の航空運賃、送迎、クルーズ前後のホテル宿泊費に加え、入国手続き諸費用や国立公園の入場料も含まれています。

ブリーフィングへの参加、ゾディアック (Zodiac®) での探検、あるい

は乾燥した大地のハイキングなど、シルバークルーズのエクスペディションではすぐに訪問地でのさまざまなアクティビティに熱中することができます。火山の噴火口でシュノーケリングをしたり、ペンギンと泳いだり、月面の景色のような溶岩原をハイキングしたり、文字通り息をつく暇もありません。ゾディアックでのエクスカージョン、白い砂浜をのんびり散策、あるいは崖の上へのハイキングなど、それぞれを特等席で楽しむことができます。そして、いつも専門ガイドがそばにいて、景色と動植物への理解が深まるよう導いてくれます。



シルバークラパゴス

船上ライフ

豪華で快適なシルバークラパゴスの船旅をお楽しみください

船上での時間はあなたのもの。気ままにお過ごしください。セミナーや毎日のブリーフィング、翌日の野外活動のプレビューに参加したり、デッキから見えるのが何という海鳥なのか説明してもらったり、船首のすぐ前で潮を吹くくじらについてのガイダンスを聞いたりすることもできます。写真のワークショップで撮影の腕を磨いたり、エクスペディションチームとおしゃべりに参加したり。無料のオープンバーは愉快的なクラブのような雰囲気を出し、予約のいらないオープンシーティングのレストランは新しい友人との食事にも最適です。

オールインクルーシブの船上ライフ

- ・ エクアドルへの往復航空券(エコノミークラス)
- ・ エクアドルとガラパゴス諸島の往復航空券(エコノミークラス)
- ・ 送迎(空港、ホテルと船)
- ・ キトでの前泊ホテル代(2泊)
- ・ “キト・バイ・ナイト”ツアー
- ・ 国立公園入場料
- ・ 下船後、午後10時以降の航空便をご利用のお客様に、グアヤキルで休憩するための部屋代
- ・ エクスペディションチームが催行するガイド付きゾディアック、陸上および海上のツアー、海岸でのアクティビティ
- ・ 深い知識をもった専門家で構成するエクスペディションチームが実施する勉強会
- ・ ゆったりとしたスイートルーム
- ・ すべてのスイートルームにバトラーサービス
- ・ 無制限の無料インターネット(WiFi)接続
- ・ お客様1名に対し約1名の乗組員が乗務し、一人ひとりに合わせたきめ細やかなサービス
- ・ 複数のレストラン、さまざまな料理、予約のいらないオープンシーティングのダイニング
- ・ ワインやスピリッツ類をはじめとする各種お飲物を客室および船内各所で提供
- ・ スイートルームでのお食事とルームサービス
- ・ 船上エンターテインメント
- ・ 船内チップ



すべてのスイートルームにバトラーサービス



フェルナンディナ島の溶岩原でトレッキング



きめ細やかにお世話をします

責任あるツーリズムのリーダーとして

ガラパゴスの生態系保護に取り組んでいます



クロエリセイタカシギ

お客様に理解をうながし、責任ある行動を順守することにより、他に類のない世界唯一のこの地域を、長期にわたって保護することができますと信じています。



ウチワサボテン、サウスプラザ島

ガラパゴス諸島の繊細な生態系は、1959年にエクアドルの国立公園に指定されてからやっと保護されるに至りました。シルバー・エクスペディションズは、ユネスコの世界遺産に登録されているこの貴重でプライスレスな島々の保護に全力で取り組んでいます。

環境保護活動

シルバー・ガラパゴスはISO14001の認証を受けています。国際標準化機構(ISO)が定めた環境マネジメントのために効果的なアクションプランとその達成に向けた取り組みを実施するためのプロセスを順守しています。さらに、シルバー・エクスペディションズはガラパゴス国立公園が取り組んでいる環境保護プログラムに参画しており、また、地域コミュニティでのリサイクル活動や環境にやさしい取り組みを支援しています。

エコツーリズム

ツーリズムは、ガラパゴス諸島の保護において果たすべき極めて重要な役割があると同時に、雇用を提供し、経済的な安定をもたらしています。お客様を教育し、責任ある行動を順守することにより、ほかに類のない世界で唯一のこの環境を、長期間にわたって保護することに寄与できると考えています。

どのクルーズ日程にも必ず、チャールズ・ダーウィン研究所の訪問が組み込まれており、お客様に環境保護や貴重な生態系と生物多様性の保護の重要性についてさらに理解を深めていただくよう取り組んでいます。

さらに足を延ばして

ランドアドベンチャーと組み合わせることができます



マチュ・ピチュ

マチュ・ピチュと聖なる谷の探検

風光明媚なペルーの風物と歴史に身を浸し、心を解き放ちましょう。「インカの失われた都市」とも呼ばれ、新・世界7不思議のひとつにも数えられる壮麗なマチュ・ピチュを訪れます。この驚くべき空中都市は、1911年まで発見されずにアンデス山脈のごつごつとした山頂で渦巻く雲の中に眠っていました。このツアーでは名高いサンクチュアリ・ロッジに宿泊し、ゆったりとマチュ・ピチュの滞在を楽しむことができます。この記憶に残るランドプログラムの旅行代金には、ツアー費用、宿泊費、リマから美しいクスコとキトまでの航空運賃が含まれ、さらにマチュ・ピチュへは往復ともに世界の鉄道10選に入る豪華列車、ハイラム・ビンガム列車に乗りします。

クルーズ乗船前の5泊6日：すべてのクルーズ出航日対象

デビルズ・ノーズとアンデス山脈のアドベンチャー

エクアドルのアンデス地域はシエラ(山地)と呼ばれ、多くの観光客が訪れます。パラモと呼ばれる特有の草原が広がる高地、山岳の湖、活火山、温泉、民芸品市場、植民地様式の町、農園など、多様な文化と自然を見ることができます。このアドベンチャーツアーでは、コトパクス国立公園を訪れ、美しい円錐形をしたコトパクス火山を間近に見ます。コトパクス火山は標高5,900メートルあり、世界最高峰の活火山のひとつです。さらに高山鉄道に乗りし、最大の名所「デビルズ・ノーズ(悪魔の鼻)」へ。最後に“エクアドルの秘宝”ともよばれるクエンカをパノラマ観光し、カハス国立公園をご覧ください。



デビルズ・ノーズ

クルーズ乗船前の5泊6日：すべてのクルーズ出航日対象

マチュ・ピチュと神話の湖

壮麗なペルーの歴史と自然に浸る7日間のツアーです。ツアーはペルーの首都、リマからスタートします。美しいミラフローレス地区やペルー料理を堪能します。続いて植民地時代の面影を残すクスコへ。アンデス山脈の中腹にあるこの町はインカ帝国の首都でした。ここから豪華列車、ハイラム・ビンガム号で美しいアンデスの景色を楽しみながらマチュ・ピチュへ向かいます。「インカの失われた都市」と呼ばれるマチュ・ピチュを散策し、かつてここで生活した司祭や職人たち、使用人たちの人生に思いをはせてみましょう。続いて、専用列車でチチカカ湖の湖畔にあるプーノを訪れます。標高3,812メートルにあるチチカカ湖は、水量と面積で南米最大であるとともに、航行可能な湖としては世界で最も高地にあるとされています。



チチカカ湖

クルーズ下船後の6泊7日：リクエストにより催行

ここに記載のツアー内容、利用航空便、宿泊場所は変更される場合があります。お申込み時にご確認ください。

お問い合わせ・ご予約は
予約担当者またはトラベルアドバイザーまで

アジア	+800 616 7056
オーストラリア	+1300 306 872
オーストリア	+43 1 928 7897
ベルギー	+32 2 401 1432
デンマーク	+45 7014 2898
ドイツ	+49 69 2222 12283
フィンランド	+358 9 2319 5040
フランス	+33 1 7070 9622
イタリア	+39 02 3604 9211
南米	+1 888 978 2840
モナコ	+377 9770 2424
オランダ	+31 20 713 9298
ニュージーランド	+0800 701 427
ノルウェー	+47 2103 3400
スウェーデン	+46 8 5068 5493
スイス	+41 4458 07181
スペイン	+34 9380 01962
米国とカナダ	+1 844 885 8417
イギリス	+44 207 340 0700